

自分の進路選択をどう考えるか？

「図書館通信」第4・5号にて、「大学での学び」に関する本を紹介しました。高蔵生の多くが大学（短大を含む）に進学している現状に基づき、このテーマを選びました。しかしながら、そもそも、大学への進学という進路選択は、分かった、当然のことなのでしょうか。皆さんが今後の進路選択を考える上で参考になるかと思い、吉川徹・中村高康『学歴・競争・人生：10代のいま知っておくべきこと』（日本図書センター、2012年）を取り上げます。

本書は学歴と競争（受験・就職など）に焦点を当てて、「今の若い世代が日本社会の厳しい現実がいかに適応していくべきか」、そのための情報を提供することを目的としています。つまり、「教育格差」ー近年の教育学でよく論じられているテーマの一つですーを生み出す社会的な背景を批判的に認めた上で、それをうまく「攻略」するための考え方を「若い世代」に身につけてもらうというのが、本書のねらいです。ここでは、皆さんの進路選択にとって関心の高い「学歴」について、その議論の一部を紹介します。

学歴ー大学卒業か高校卒業か、名門校出身か非名門校出身かなどーは、著者に言わせると、「大人社会の目線」から評価される「人生の切符」と捉えられています。「若い世代」が「大人社会」に入る、つまり就職する際に、「大人社会」側から求められる通行券ということです。現在、高校進学率が約98%に、大学進学率が約58%に達する日本では、「若い世代」が就職するかどうかを決める分岐点は18歳。18～20歳で就職すれば、「高卒（専門学校を含む）切符」を、20～22歳で就職すれば、「大卒切符」を獲得することとなります。どちらの「切符」を得た方がよいかは、将来のビジョンが明確かどうかで決まります。自分のやりたい仕事ははっきりしていれば、そのための技能を最短で身につけられる「高卒切符」を得た方が、合理的な進路選択となります。一方で、将来の方向性に迷う場合は、ある程度の変更がきく「大卒切符」を手に入れた方が、より合理的となります。

これぐらいの話であれば、従来、進路選択のあるべき方法として強調されてきたのではないかと思います。しかし、本書がここに構造的な問題として加えて論じているのは、日本では、欧米諸国と比べて、「大卒切符」にいびつなほどの重き価値が置かれている現状です。逆に言えば、「高卒切符」が不当に低く評価されている状況です。「若い世代」は将来のビジョンという当然の観点に基づいて、希望の進路を選びにくくなっているとされるのです。自己実現の多様なあり方の重要性が、さまざまな場面で訴えられていることは、皆さんもご存知でしょう。「若い世代」の進路選択の幅が、本人の力ではどうすることもできない構造的な問題により狭められてしまうことは、社会のダイバーシティ（多様性）化を妨げ、いずれは社会全体の活力を失わせることとなるでしょう。「若い世代」の進路選択の幅を広げることができるかどうかは、実は「大人社会」側の責任です。そんな現状において、皆さんは「高卒切符」と「大卒切符」いずれを得たいのか。どちらが正解、不正解ではありません。とても難しいでしょうが、自分の人生を見据えた上で、より「戦略的」な進路選択が皆さんに求められているのかもしれません。

「教育格差」について詳しく学びたい人は、図書館に所蔵されている次の本を参照してください。小林雅之『進学格差』（ちくま新書、2008年）、橘木俊詔『日本の教育格差』（岩波書店、2010年）、松岡亮二『教育格差』（ちくま新書、2019年）です。また、「教育格差」を軸として、最近の教育事情について広く知りたい人は、松岡亮二編『教育論の新常識』（中公新書ラクレ、2021年）をご覧ください。





新着図書案内



【B081 文庫本】

- * 対岸の家事 朱野帰子著 講談社
- * 金環日蝕 阿部暁子著 東京創元社
- * やなせたかし；子どもたちを魅了する永遠のヒーローの生みの親 青山誠著 KADOKAWA
- * わたしの幸せな結婚 八・九 顎木あくみ著 KADOKAWA
- * 地上に星座をつくる 石川直樹著 新潮社
- * やなせたかしの素顔；のぶと歩んだ生涯 伊多波碧著 潮出版社
- * 月まで三キロ 伊予原新著 新潮社
- * 灯台へ ヴァージニア・ウルフ著 新潮社
- * やなせたかしの生涯；アンパンマンとぼく 梯久美子著 文藝春秋
- * 眠れる美女 川端康成著 新潮社
- * どうせそろそろ死ぬんだし 香坂鮎著 宝島社
- * 愛の人 やなせたかし 小手鞠るい著 講談社
- * 准教授・高槻彰良の推察 EX3 澤村御影著 KADOKAWA
- * 室町は今日もハードボイルド；日本中世のアナーキーな世界 清水克行著 新潮社
- * おカネの教室；僕らがおかしなクラブで学んだ秘密 高井浩章著 新潮社
- * 写楽殺人事件；新装版 高橋克彦著 講談社
- * 鏡面のエリクサー；天久鷹央の事件カルテ 知念実希人著 実業之日本社
- * 天久翼の読心カルテ；神酒クリニックで乾杯を 知念実希人著 実業之日本社
- * 荒野のおおかみ ヘルマン・ヘッセ著 新潮社
- * マイ国家 星新一著 新潮社
- * ノーマンズランド 菅田哲也著 光文社
- * 一次元の挿し木 松下龍之介著 宝島社
- * 葉隠入門 三島由紀夫著 新潮社
- * イヤシノウタ 吉本ばなな著 新潮社
- * 名前と呼ばれたこともなかったから；奈良少年刑務所詩集 寮美千子編 新潮社

【S081 新書本】

- * 現代人を救うアンパンマンの哲学 物江潤著（朝日新書）
- * カラー版 本ができるまで 増補版 岩波書店編集部編（以上 岩波ジュニア新書）
- * 緑地と文化；社会的共通資本としての杜 石川幹子著
- * ブラック・カルチャー；大西洋を旅する声と音 中村隆之著
- * ラジオの、光と闇；高橋源一郎の飛ぶ教室2 高橋源一郎著
- * ケアと編集 白石正明著（以上 岩波新書 新赤版）
- * 働くということ；「能力主義」を超えて 勅使河原真衣著（集英社新書）
- * アンパンマンと日本人 柳瀬博一著（新潮新書）
- * 江戸東京野菜の物語；伝統野菜でまちおこし 大竹道茂著（平凡社新書）

【100 哲学】

- * マンガでわかる日本仏教13宗派 石田一裕監修 誠文堂新光社
- * 17歳のきみへ；人生で大事なことは、目には見えない 鎌田實著 集英社

【200 歴史】

- * ビジュアル版 一冊でつかむ江戸の町と暮らし 安藤優一郎監修 河出書房新社
- * 江戸時代の暮らしと文化の絵事典 安藤優一郎監修 成美堂出版
- * キャラ絵で学ぶ！江戸の暮らしと文化；えどのくらしとぶんかずかん 伊藤賀一監修 すばる舎
- * 戦争を知らないキミへ；1945年、14歳の僕が考えていたこと。上・戦中編/下・戦後編 大串潤児監修 ポプラ社
- * 教えて！池上彰さん 沖縄から考える戦争と平和 第1巻 沖縄はどこなところ？ 第2巻 沖縄の歩みと戦争 第3巻 沖縄の今 池上彰監修 小峰書店
- * 鳥居きみ子；家族とフィールドワークを進めた人類学者 竹内紘子著 くもん出版
- * 名古屋市のトリセツ 昭文社編集部編 昭文社

【300 社会科学】

- * ニュース年鑑 2025 池上彰監修 ポプラ社
- * SDGsで見る 現代の戦争；知って 調べて 考える 伊勢崎賢治監修 Gakken
- * 僕らは戦争を知らない 小泉悠監修 Gakken
- * 図解でわかる時事重要テーマ100 2025-2026 日経HR編集部編著 日経HR
- * マンガ家になるには 小杉真紀他著 ペリかん社
- * 作業療法士になるには 濱口豊太編著 ペリかん社
- * となりのヤングケアラー 村上靖彦著 筑摩書房
- * 知りたい！専門学校 衛生分野① 美容・理容・メイク・ネイルなど 大岳美帆著 ペリかん社

【400 自然科学】

- * 南海トラフ地震の真実 小沢慧一著 東京新聞
- * ガザ、戦下の人道医療援助 萩原健著 ホーム社

【600 産業】

- * 地上創生大全 木下斉著 東洋経済新報社
- * 日本一わかりやすい地方創生の教科書；全く新しい45の手法&新常識 鈴木信吾著 東洋経済新報社
- * ウィキペディアでまちおこし；みんなでつくろう地域の百科事典 伊達深雪著 紀伊国屋書店
- * ラジオと戦争；放送人たちの「報国」 大森淳郎・NHK放送文化研究所著 NHK出版
- * 入門 観光学 改訂版 竹内正人他編 ミネルヴァ書房

【700 芸術】

- * 伝統の美がひかる！江戸時代の天才絵師 葛飾北斎/歌川広重/俵屋宗達/尾形光琳/伊藤若冲 山下裕二監修 ほるぷ出版
- * 大ピンチずかん 3 鈴木のりたけ作 小学館
- * スポーツ年鑑 2025 小学館クリエイティブ編 ポプラ社

【800 言語】

- * 現代用語の基礎知識 2025 自由国民社編 自由国民社

【900 文学】

- * 風読みの彼女 宇山佳佑著 集英社
- * 地上に輝く星たち カシミズカ著 幻冬舎
- * ありが 瀬尾まいこ著 水鈴社
- * チェーン・ディザスターズ 高嶋哲夫著 集英社
- * すべての恋が終わるとしても；140字の忘れられない恋 冬野夜空著 スターツ出版
- * その嘘を、なかったことには 水生大海著 双葉社